

通常ヘリなら接触しても給油ホースのほうが切れる

オスプレイのプロペラは壊れやすい。機体構造に起因した事故の可能性否定できず

赤嶺議員は、両翼の大きなプロペラは給油ホースとの接触事故を起こす可能性が高く、しかもプロペラは非常に壊れやすい構造になっていることを指摘。オスプレイ開発に携わったレックス・リポロ氏が「通常のヘリでホースがローターに当たれば、ホースが切れ、緊急着陸できる。オスプレイのプロペラは非常に繊細

で、ホースに当たるとバラバラに壊れてしまう」と述べていることも示し、「プロペラの強度について米側に確認しているのか」と追及。深山局長は未確認であることを認めました。

赤嶺議員は、プロペラの強度や、MC130の後方乱気流に巻き込まれた可能性

から、オスプレイの機体構造に起因した事故であった可能性を否定することはできない。

○安倍首相 引き続き事故の再発防止を強く求めるとともに、安全確保に万全を期していきたい。

「陸地で給油訓練」しないと名護市上空で確認 「上空は飛ばない」答弁の独り歩きはやめよ

安倍首相は、オスプレイの空中給油訓練を3週間後に再開したことについて「訓練は今後も陸地から離れた場所

の写真(図下)を示し、「陸地の上空でも空中給油を実施している」と追及しました。

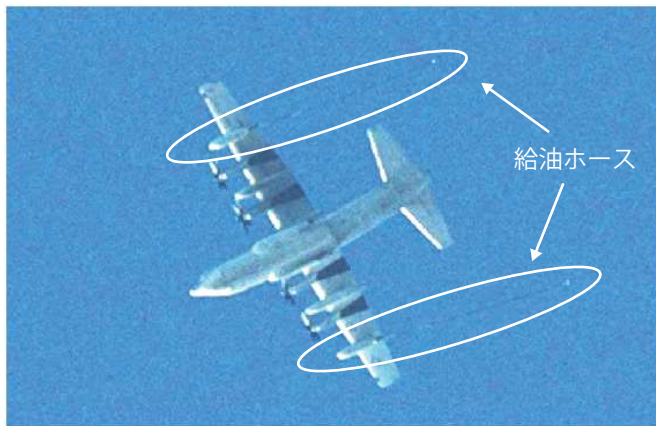
でしか行わないことも(米側に)確認している」と答弁。

政府は、名護市からの指摘を受け、訓練について問い合わせをしていることを答弁。

これに対し赤嶺議員は2015年10月26日、名護市役所上空で同市職員が米軍の空中給油機と戦闘機の空中給油訓練

赤嶺議員は、「陸地の上空では訓練を行わない」という答弁だけを独り歩きさせるのはやめるべきだ」と迫りました。

を目撃したと指摘。空中給油機が2本の給油ホースを後方に伸ばしながら飛行し(図上)、



給油ホースを2本出しながら飛行する空中給油機



空中給油機と並行して飛行する戦闘機
(2015年10月26日、名護市基地対策室撮影)

墜落現場の上空を日常的に飛行することになる基地建設を認めるのか 危険な普天間基地は閉鎖・撤去、辺野古に新基地は造らせない

いことを強く求める」と述べました。



辺野古新基地の飛行ルート
オスプレイの飛行ルート(北東よりの風の場合)
有視界飛行(小回りは転換モード、大回りは固定翼モード)
計器飛行

赤嶺議員は、名護市辺野古の米軍新基地周辺に計画されたオスプレイの飛行ルートを示し(図)、今回のオスプレイ墜落現場は、管制塔の誘導に従って飛行する「計器飛行」ルートの直下に当たると指摘。「墜落現場の上空をオスプレイが日常的に飛行する、そういう基地の建設を進めようとしていることを認めるか」と追及しました。稲田防衛大臣は「辺野古移転は普天間飛行場の危険性除去のための唯一の解決策だ」と強弁。安倍首相は「普天間で住宅地の上空を飛行するが、辺野古移転で陸上ではなく海上を飛行することになる」と正当化しました。赤嶺議員は「陸地の上空を飛ばす図を見せられて、よくも海上を飛行すると言えたものだ」と批判。「危険な普天間基地は閉鎖、撤去して、辺野古基地も造らな



オスプレイの墜落抗議と撤去を求める緊急抗議集会。壇上右から2人目は翁長知事=12月22日、沖縄県名護市